

ニッ山第1遺跡

ニッ山地区工場誘致に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1992

宮崎県宮崎郡田野町教育委員会

序

田野町では工業団地の整備をはじめとして多くの企業を誘致してまいりましたが、平成2年度は二ツ山地区に株式会社ミヤコーを誘致することとなりました。この建設予定地内に埋蔵文化財が所在したため、工事施工上現状保存が不可能な部分について、町教育委員会で記録保存のための発掘調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代早期の土器・石器や集石遺構（炉跡）等が多数発掘され、特に集石遺構は密集した状態で検出されました。本書は、この発掘調査の記録を報告するものであります。本書の刊行を期に、田野町の歴史のすばらしさを認識いただければ光栄と存じます。

平成4年3月31日

田野町教育委員会

教育長 鍋 倉 政 信

例　　言

1. 本書は田野町二ツ山地区の工場誘致に伴い、平成2年度に実施した二ツ山第1遺跡の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は次の体制で実施した。

調査主体 田野町教育委員会

教育長 鍋倉 政信

社会教育課長 北村 光雄

社会教育係長 長友 啓泰（調整担当）

主査 横間 靖子

（平成2年度調査事務担当）

主査 長友カッ子

（平成3年度調査事務担当）

主事 森田 浩史（調査担当）

調査指導 宮崎県教育庁文化課

調査協力 熊本県文化課、鹿児島県文化課、宮崎県文化課

3. 遺物の洗浄・復元・拓本・実測・トレース・図面等の整理には、川越小百美・戸村晴美・富中優子・的場美佐子の補助を得た。

4. 本書の執筆・編集は、森田が担当した。

5. 本書に用いた方位は磁北、レベルは海拔絶対高である。

6. 本書に用いた記号（S I）は集石遺構を示す。

本　文　目　次

| | |
|----------------------------|----|
| 第I章 序 説 | 1 |
| 第1節 発掘調査に至る経緯 | 1 |
| 第2節 ニツ山第1遺跡の位置と歴史的環境 | 1 |
| 第II章 遺構と遺物 | 5 |
| 第1節 調査区の設定と概要 | 5 |
| 第2節 包含層の状態 | 5 |
| 第3節 検出遺構 | 6 |
| 第4節 出土遺物（土器） | 17 |
| 第5節 出土遺物（石器） | 19 |
| 第III章 ま と め | 37 |
| 第1節 遺構について | 37 |
| 第2節 遺物について | 37 |
| 第3節 おわりに | 39 |

表　目　次

| | |
|-----------------|----|
| 表 1 土器観察表 | 24 |
|-----------------|----|

挿　図　目　次

| | |
|----------------------|-------|
| 第1図 町内遺跡分布図 | 4 |
| 第2図 調査区位置図 | 5 |
| 第3図 B区土層柱状図 | 5 |
| 第4図 A区地形測量図 | 20 |
| 第5図 A区遺構配置図(1) | 21～22 |
| 第6図 B・C区遺構配置図 | 23 |
| 第7図 繩文土器実測図(1) | 28 |
| 第8図 繩文土器実測図(2) | 29 |

| | |
|-----------------------|----|
| 第9図 繩文土器実測図(3) | 30 |
| 第10図 繩文土器実測図(4) | 31 |
| 第11図 繩文土器実測図(5) | 32 |
| 第12図 石器実測図(1) | 33 |
| 第13図 石器実測図(2) | 34 |
| 第14図 石器実測図(3) | 35 |
| 第15図 石器実測図(4) | 36 |
| 第16図 A区遺構配置図(2) | 38 |

写真図版目次

| | |
|--------------|--------------------------------|
| P L 1 | 遺跡全景（調査開始前） |
| P L 2 | 遺跡全景（調査終了前） |
| P L 3 | A地区東側遺構検出状況・焼石群検出状況 |
| P L 4 | A地区集石遺構検出状況 |
| P L 5 | S I -01・02・03・04 検出状況 |
| P L 6 | S I -05・06・07・08・09 検出状況 |
| P L 7 | S I -10・11・12・13・14・15・16 検出状況 |
| P L 8 | S I -17・18・19 検出状況 |
| P L 9 | S I -20・21・22・23・24・25 検出状況 |
| P L 10 | S I -24・25・26・27 検出状況 |
| P L 11 | S I -28・29・30・31・32・33・34 検出状況 |
| P L 12 | S I -35・36・37・38・39・40 検出状況 |
| P L 13 | S I -41・42・43・44・45 検出状況 |
| P L 14 | S I -46・47・48・49・50 検出状況 |
| P L 15 | S I -51・52・53 検出状況 |
| P L 16 | S I -53・54・55・56 検出状況 |
| P L 17 | S I -57・58・59・60 検出状況 |
| P L 18 | S I -61・62・63・64・65 検出状況 |
| P L 19 | S I -66・67・68・69・70 検出状況 |

| | |
|--------------|---------------------------------|
| P L 20 | S I -71・72・73・74・75・76・77 検出状況 |
| P L 21 | S I -78・79・80・81・82・83 検出状況 |
| P L 22 | S I -84・85・86・87・88 検出状況 |
| P L 23 | S I -89・90・91・92・93 検出状況 |
| P L 24 | S I -94・95・96・97・98・99 検出状況 |
| P L 25 | S I -100・101・102・103 検出状況 |
| P L 26 | S I -104・105・106・107 検出状況 |
| P L 28 | S I -106・107・108・109 検出状況 |
| P L 29 | S I -110・111・112 検出状況、焼石分布状況 |
| P L 30 | B区全景、C区全景、S I -113・114・115 検出状況 |
| P L 31 | 出土遺物〔土器〕 |
| P L 32 | 出土遺物〔土器〕 |
| P L 33 | 出土遺物〔土器〕 |
| P L 34 | 出土遺物〔土器〕 |
| P L 35 | 出土遺物〔土器〕 |
| P L 36 | 出土遺物〔石礫〕 |
| P L 37 | 出土遺物〔剥片ほか〕 |
| P L 38 | 出土遺物〔石器〕 |

第一章 序説

第1節 発掘調査に至る経緯

田野町では、前平地区の工業団地をはじめとして各地に企業誘致を進めている。その中で二ツ山地区においても誘致されることとなった。平成2年5月に誘致企業である（株）ミヤコーから田野町教育委員会に遺跡の有無についての照会があり、工場建設予定地が周知の遺跡であったため、同年5月22日に遺跡の保存と工事施工の対応について協議した。しかし工場経営並びに事業スケジュール上全面的な対応は不可能ということで、試掘調査を実施し遺跡の正確な範囲と密度等のデータを出したうえで再度協議することとなった。試掘調査は5月23日から5月25日にかけて実施した。調査の結果、建設予定地のほぼ全域に遺物を確認し、特に建物にあたる部分に集石遺構の密集した状況が見られた。この結果をもとに再度協議を行ったが建物部分を移動させることは工事施工上不可能ということで、これと浄化槽部分等を調査の対象とし、他は全て盛土保存することで合意した。平成2年6月25日付で協定と委託契約を締結し、発掘調査を6月26日に着手し8月5日に現地におけるすべての作業を終了した。調査は事業者の経営上の都合から充分な日程を組むことができず、写真等による最低限の記録に留まらざるを得なかった。

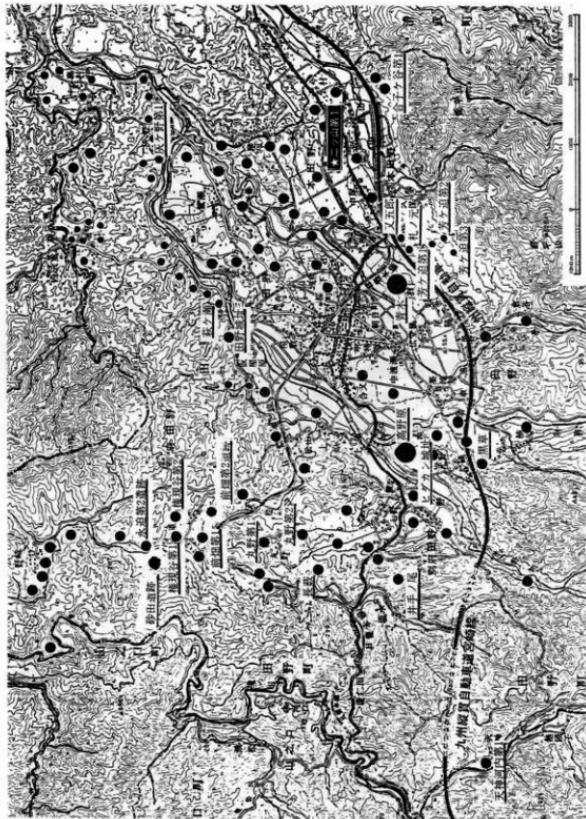
第2節 ニツ山第1遺跡の位置と歴史的環境

田野町は宮崎県中南部の宮崎市との西方約20kmの田野盆地を中心とし、東西・南北は約14kmあり、総面積は109,01Km²に至る。田野盆地は南那珂山地の北西部にあたる、標高200m以下の台地上に、西南西に大きく入り込んだ地溝状の凹地である。

二ツ山地区はこの台地上にあり、国道269号線により南北に分断される。二ツ山第1遺跡はこの北側の緩斜面に位置する。平成元年度に実施した遺跡詳細分布調査により、縄文時代の遺物散布地として確認されたものである。以下、町内の遺跡を時代別に概観しておく。

（旧石器時代）

旧石器時代の遺跡には、ナイフ形石器が表面採集された萩ヶ瀬第2遺跡をはじめとして昭和58・59年度に発掘調査済の前平地区の芳ヶ迫第1・第3遺跡、札ノ



第1図 町内遺跡分布図

元遺跡と昭和63年度に発掘調査済の長蔵遺跡がある。芳ヶ迫第1遺跡では集石遺構が検出され、その周囲からナイフ形石器・剥片尖頭器・三稜尖頭器・彫器・搔器などが出土している。芳ヶ迫第3遺跡では集石遺構に伴った石核・剥片の他、剥片尖頭器が出土している。札ノ元遺跡では集石遺構が検出され、その周囲から石核・剥片・ナイフ形石器などが出土している札ノ元遺跡の焼石は熱ルミネッセンス法による年代測定の結果、20920年B.P.の年代が得られている。長蔵遺跡ではA T上層の褐色ローム層から石核・剥片などが出土している。

(縄文時代)

縄文時代早期の遺跡は町内でも最も多く、既に発掘調査済の遺跡に芳ヶ迫第1遺跡・第3遺跡、札ノ元遺跡、又五郎遺跡、長蔵遺跡、丸野第2遺跡、天神河内第1遺跡、権現谷第1遺跡・第2遺跡、前畠第1遺跡・第2遺跡、砂田遺跡、井手ノ尾遺跡と今回報告する二ツ山第2遺跡などがある。札ノ元遺跡、又五郎遺跡、権現谷第1遺跡ではこの時期の竪穴住居跡が、長蔵遺跡、権現谷第1遺跡では墓の可能性が考えられる長方形の土坑が検出されている。土器は上記の各遺跡の調査により前平式・吉田式・岩本式・下剥峰式・桑ノ丸式・手向山式・平拵式・塞ノ神式などの南九州において見られる早期の初頭から末葉にかけての各形式のものが出土している。詳細については各報告書等を参照されたい。

前期は丸野第2遺跡、長蔵遺跡、権現谷第2遺跡、天神河内第1遺跡・第2遺跡などがある。長蔵遺跡、権現谷第2遺跡からは少量であったが曾畠式土器が土坑に伴って出土している。

中期は丸野第1遺跡から凹線文土器が出土しているのみで発掘調査による資料は現在のところない。

後期は黒草遺跡・青木遺跡・丸野第2遺跡・砂田遺跡などがある。配石遺構や貯蔵穴が検出された青木遺跡では後期初頭～中頃の指宿式・綾式・下弓田式などが出土している。竪穴住居跡が検出された丸野第2遺跡では指宿式・松山式・市来式・草野式・小池原上層式・鐘崎式などが出土している。砂田遺跡では貯蔵穴と考えられる土坑に伴って後期初頭の土器が出土している。

晚期は芳ヶ迫第1遺跡・第3遺跡、丸野第1遺跡がある他、吹田遺跡から黒色の磨研土器が出土している。

(弥生時代)

弥生時代は終末期の土器が出土した黒草第1遺跡、方形の竪穴住居跡に伴って後期初頭の中溝式土器が出土した権現谷第1遺跡と後期前半の竪穴住居跡が検出

された丸野第2遺跡がある。丸野第2遺跡のS A 1からは磨製石鎌の未製品・剥片・製品が出土しており、石器製作址として興味深い資料である。

(古墳時代)

この時代のマウンドを有する古墳・集落址等の調査例・発見例はないが、地下式横穴墓が高野原遺跡、灰ヶ野第1遺跡で検出されている。いずれも畑の耕作中、整地中に発見されたものである。灰ヶ野1号地下式横穴墓からは人骨1体・蛇行剣1本・鉄斧1本・鉄鎌10本・刀子1本が出土している。高野原1号地下式横穴墓からは鹿角製刀装具付き剣が1本出土している。

(古代以降)

奈良時代の資料は現在のところ確認されていない。しかし、平安時代に至ると町内各地で布目痕土器が見られる。発掘調査された例に合子ヶ谷第1遺跡がある。また、前平地区の発掘調査でもこの時代の資料が少量ながら出土している。合子ヶ谷第1遺跡では土坑が検出された。

中世から近世にかけては山城や社寺・墓地などがあるが調査例としては芳ヶ迫第2遺跡と天神河内第1遺跡・第2遺跡のみである。芳ヶ迫第2遺跡では備前焼の甕、東播系の片口鉢・青磁器が出土している。天神河内遺跡では石組みの遺構や溝・掘立柱建物などが検出されている。

以上のように縄文時代の遺跡が多くを占めるが、近年の発掘調査件数の増加に伴い空白であった部分も徐々に埋まりつつある。ただ、現状においてみる限り田野町の歴史的環境は縄文時代の生活に最も適していたことを物語るものである。

〔参考文献〕

- 「芳ヶ迫第2・第3・第3遺跡、札ノ元遺跡」田野町文化財調査報告書 第3集 1986
- 「長蔵遺跡発掘調査概要」田野町文化財調査報告書 第6集 1989
- 「八重地区遺跡発掘調査概要」田野町文化財調査報告書 第7集 1989
- 「合子ヶ谷遺跡」田野町文化財調査報告書 第8集 1989
- 「前畠第1遺跡発掘調査概要」田野町文化財調査報告書 第9集 1990
- 「田野町遺跡詳細分布調査報告書」田野町文化財調査報告書 第10集 1990
- 「丸野第2遺跡」田野町文化財調査報告書 第11集 1990
- 「前畠第2遺跡・砂田遺跡調査概要」田野町文化財調査報告書 第12集 1991
- 田中茂「宮崎郡田野町灰ヶ野地下式横穴」宮崎県総合博物館研究紀要 NO.1 1972
- 「高野原地下式1号墳発掘調査」宮崎県文化財調査報告書 第24集 宮崎県 1981

第 II 章 遺構と遺物

第1節 調査区の設定と概要

二ツ山第1遺跡は標高約27m前後の台地上に位置する。現在の地形は平坦であるが試掘調査により何本もの小さな谷があり込んだ複雑な旧地形を確認した。

調査区は工場建物部分をA区・B区とし、排水処理施設部分をC区として設定した。A区・B区についてはこの小さな谷を境として分け、谷の部分は調査対象から除外した。調査面積はA区が1,750m²、B区が320m²、C区が120m²の全体で約2,200m²に至った。

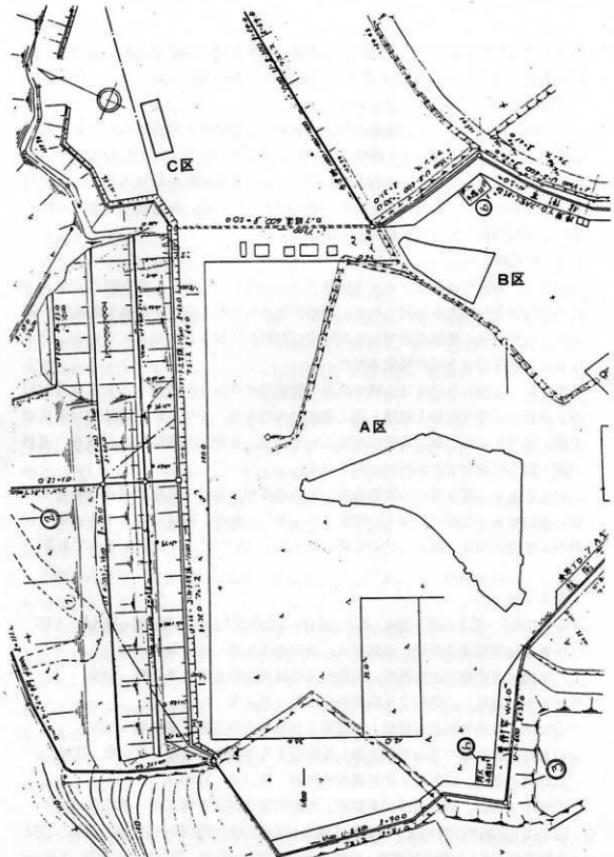
A区の調査では、集石造構が112基、B区で2基、C区で2基が検出され、遺物は各調査区から縄文早期の土器・石器（石鐵・石錐・石斧・石皿・すり石・たたき石・有溝砥石・剥片）などが出土した。分布調査・試掘調査の段階では、これよりも新しい時代の遺物が確認されていたが本調査においては全く見られなかった。恐らく後世の開墾により削除された。既に包含層等は消滅しているものと考えられる。

第2節 包含層の状態

当遺跡においては、A区・C区の残存状態が悪く、B区のみ良好な状態で見られた。

当遺跡の基本層序は、上層から耕作土、旧耕作土、第I層が赤ホヤ二次堆積層、第II層が赤ホヤ層、第III層が黒褐色土層 (Hue2.5 Y 3/1硬質で乾燥するとブロック状にひび割れるが湿った状態では強い粘性を有する)、第IV層が暗褐色土層 (Hue10YR 3/4 やや硬質で粘性を有する)、第V層が暗褐色土層 (Hue10 YR 3/3粒子が荒くやや砂質を含む)、第VI層が褐色土層 (Hue10 YR 4/4 やや粘性を有し、暗褐色のブロックを含む)、第VII層がA T層である。

遺物は第III層と第IV層の上部において出土し、遺構は第IV層の上面と中層部において検出された。いずれも縄文時代早期のものである。



第2図 調査区位置図

| | |
|-------|-----------------------|
| 表 土 | 耕作土層 |
| 二次赤ホヤ | 火山灰二次堆積層 |
| 赤ホヤ | 火山灰堆積層 |
| III | 2.5Y 黒色3/1 (遺物包含層) |
| IV | 10YR 暗褐色 3/4 |
| V | 10YR 暗褐色 3/3 |
| VI | |
| VII | |

第2図 B区土層柱状図

第3節 検出遺構

試掘調査の段階で既に焼礫等を確認していたので、遺構の検出作業は集石遺構を想定しておこなった。赤ホヤを除去した段階でその直下の黒褐色土層上面からは焼礫は殆ど見られなかったが、更に褐色土層まで掘りすすめるにしたがって明確な集石遺構を含めた焼礫の密な状況（散石）が見られ始めた。これら散石を精査した結果、最終的に116基の集石遺構を検出するに至った。

集石遺構は規模の大小、土坑の有無、焼礫の集積状態などから、いくつかのパターンが見られる。

| 規 模 | | 土坑の有無 | | 焼け石の状態 | | |
|---------|-------------|--------|----------|--------|---|---|
| A | 長軸 ~ 80 cm | I 有 | 深さ16cm以上 | | | a 密 |
| | 長軸 ~ 120 cm | | 深さ15cm以内 | | | b 疎ら |
| C | 長軸 121 cm~ | III 無 | — | c 散石状 | 1 |  |
| — A 区 — | | — | — | b | 2 |  |
| — | | — | — | c | 3 |  |

(S I -01) 分類〔C I a 2〕

集石の規模は約150cm×130cmで、ほぼ円形のプランを呈す。130cm×110cm深さ27cmの土坑を伴う。石はやや密な状態で集積される。埋土は黒色土で炭化物が見られた。

(S I -02) 分類〔B II b 3〕

集石の規模は約100cm×80cmを測る。石の集積状態はややまばらで、プランは不整形である。80cm×71cm深さ10cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土で炭化物が見られた。

(S I -03) 分類〔B II a 3〕

集石の規模は約100cm×90cmを測る。石の集積状態はやや密で、ほぼ円形のプランを呈す。85cm×80cm深さ12cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土で炭化物が見られた。

(S I -04) 分類〔C II a 3〕

集石の規模は約140cm×100cmを測る。石の集積状態はやや密で、楕円形に近いプランを呈す。100cm×115cm深さ15cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土で炭化物が見られた。

(S I -05) 分類〔A I a 2〕

集石の規模は約44cm×40cmと小ぶりで、石の集積状態はやや密であるが、不整形なプランを呈す。53cm×50cm深さ16cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I -06) 分類〔B I a 2〕

集石の規模は約60cm×40cmと小ぶりで、石の集積状態はやや密である。プランはほぼ円形を呈す。50cm×45cm深さ22cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I -07) 分類〔A I a 1〕

集石の規模は約110cm×100cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。100cm×98cm深さ30cmの土坑を伴う。土坑の壁面に密着して20cm～35cm大の石が立てられその中にコブシ大の焼礫が入る。埋土は黒色土下に暗褐色土で炭化物が見られた。

(S I -08) 分類〔A III c〕

集石の規模は約40cm×38cmと小ぶりで、土坑は伴わない。石の集積状態は、やや疎らである。

(S I -09) 分類〔B I a 1〕

集石の規模は約108cm×100cmを測る。石の集積状態はやや密である。プランはほぼ円形を呈す。105cm×100cm深さ30cmの土坑を伴う。埋土は黒色土下に暗褐色土で炭化物が見られた。

(S I -10) 分類〔B I a 2〕

集石の規模は約110cm×108cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態はやや密である。85cm×75cm深さ20cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土で炭化物が見られた。

(S I -11) 分類〔C II a 3〕

集石の規模は約184cm×150cmを測り、やや楕円形のプランを呈す。石の集積状態は密であるが、一部焼礫を取り出した痕跡が見られた。100cm×90cm深さ15cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土下に黒色土。

(S I -12) 分類〔A III c〕

集石の規模は約42cm×40cmと小規模で、土坑は伴わない。石の集積状態はやや疎らである。

(S I -13) 分類〔C III c〕

石の集積状態はある程度のまとまりはあるものの、散石状に疎らである。土坑を伴わない。

(S I -14) 分類〔C I a 1〕

集石の規模は約290cm×220cmを測り、円形に近いがやや不整形なプランを呈す。

石の集積状態は密であるが、一部焼跡を搔き出した痕跡が見られた。150cm×145cm深さ25cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 15) 分類〔C II b 3〕

集石の規模は約135cm×125cmを測り、円形に近いプランを呈す。石の集積状態は疎らである。105cm×90cm深さ13cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 16) 分類〔C II c〕

集石の規模は約150cm×135cmを測り、円形に近いプランを呈す。石の集積状態は疎らである。65cm×60cm深さ14cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 17) 分類〔C II a 2〕遺物〔土器片〕

集石の規模は約220cm×——cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態は密である。一部焼跡を搔き出した痕跡が見られた。105cm×95cm深さ20cmの土坑を伴う。切り合い関係から、S I - 18・19がこれより後に営まれたものと見られる。埋土は暗褐色土。

(S I - 18) 分類〔C I a 2〕

集石の規模は約155cm×140cmを測り、やや不整形な円形に近いプランを呈す。石の集積状態はやや密である。130cm×110cm深さ34cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 19) 分類〔C I b 2〕遺物〔34〕

集石の規模は約165cm×125cmを測り、やや不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。75cm×70cm深さ23cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 20) 分類〔C II a 3〕

集石の規模は約148cm×121cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態はやや密である。110cm×110cm深さ15cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 21) 分類〔B III c〕

集石の規模は約88cm×70cmを測り、土坑を伴わない。石の集積状態はやや疎らである。

(S I - 22) 分類〔B II b 3〕

集石の規模は約115cm×93cmを測り、橋円形のプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。114cm×94cm深さ15cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 23) 分類〔C I a 2〕遺物〔土器片〕

集石の規模は約124cm×120cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態はやや密である。180cm×140cm深さ36cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土下に黒色土。

(S I - 24) 分類〔C I a 2〕

集石の規模は約130cm×90cmを測り、ほぼ楕円形のプランを呈す。石の集積状態はやや密である。124cm×90cm深さ17cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土。

(S I - 25) 分類〔B III c〕

集石の規模は約116cm×110cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態は疎らで、土坑を伴わない。

(S I - 26) 分類〔C I a 1〕

集石の規模は約180cm×170cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態はやや密である。160cm×160cm深さ23cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土下に黒褐色土。

(S I - 27) 分類〔A II a 3〕

集石の規模は約80cm×80cmを測り、小規模な円形に近いプランを呈す。石の集積状態はやや密である。70cm×65cm深さ8cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 28) 分類〔C II a 3〕

集石の規模は約130cm×120cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態は密で、浅い落ち込みを伴う。

(S I - 29) 分類〔B II a 3〕

S I - 28と一部接して設営される。集石の規模は約170cm×160cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態は密で、浅い落ち込みを伴う。S I - 28廃棄後に営まれたものと見られる。

(S I - 30) 分類〔C III c〕

集石の規模は約150cm×80cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らで、土坑を伴わない。

(S I - 31) 分類〔B III c〕

集石の規模は約98cm×80cmを測り、不整形な散石状のプランを呈す。石の集積状態は粗で、土坑を伴わない。

(S I - 32) 分類〔A III c〕遺物〔有溝砥石134〕

集石の規模は約80cm×75cmと極めて小規模で、石の集積状態は粗で、土坑を伴わない。

(S I - 33) 分類〔C I a 1〕

試掘の段階で確認したもので、集石の規模は約220cm×——cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。210cm×——cm深さ50cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土下に黒褐色土。集石の周囲には焼跡が散乱した状況が見られた。試掘調査時に確認したものである。

(S I -34) 分類〔B I a 2〕

集石の規模は約120cm×110cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態はやや密である。113cm×106cm深さ34cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土。

(S I -35) 分類〔B I a 2〕

集石の規模は約115cm×95cmを測り、やや楕円形のプランを呈す。石の集積状態はやや粗である。143cm×103cm深さ25cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I -36) 分類〔C I a 2〕遺物〔土器55〕

集石の規模は約130cm×112cmを測り、不整形な円形のプランを呈す。石の集積状態はやや密である。122cm×118cm深さ32cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土。

(S I -37) 分類〔A III c〕

集石の規模は約70cm×40cmで、散石状の不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らで、土坑を伴わない。

(S I -38) 分類〔A II c 3〕

集石の規模は約80cm×70cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態は疎らである。深さ8cmのごく浅い土坑を伴う。

(S I -39) 分類〔B I b 2〕遺物〔土器12・66〕

集石の規模は約100cm×90cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。81cm×68cm深さ30cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I -40) 分類〔B II c〕

集石の規模は約95cm×90cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態は疎らである。埋土は暗褐色土で炭化物が少量見られた。ごく浅い土坑を伴う。

(S I -41) 分類〔C I a 1〕遺物〔黒曜石チップ・剥片・石鎚119〕

集石の規模は約200cm×180cmを測り、やや不整形な円形のプランを呈す。石の集積状態は密であるが、一部焼礫を取り出した痕跡が見られた。172cm×150cm深さ45cmの土坑を伴い、石鎚が出土した。埋土は暗褐色土下に黒褐色土。

(S I -42) 分類〔B III c〕

集石の規模は約115cm×110cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態は粗で、土坑を伴わない。

(S I -43) 分類〔A III b〕

集石の規模は約80cm×50cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや粗で、土坑を伴わない。

(S I -44) 分類〔C I a 2〕

集石の規模は約150cm×130cmを測り、やや楕円形のプランを呈す。石の集積

状態はやや密である。周囲には散石状に焼礫が散在する。149cm×138cm深さ45cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土下に暗褐色土。

(S I -45) 分類〔B I a 1〕

集石の規模は約120cm×130cmを測り、やや楕円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。110cm×110cm深さ20cmの土坑を伴い、石鎚が出土した。埋土は黒褐色土下に暗褐色土で、炭化物が見られた。

(S I -46) 分類〔A III c〕

きわめて小規模で、土坑を伴わない。石の集積状態は疎らである。

(S I -47) 分類〔B I a 1〕

集石の規模は約90cm×80cmを測り、やや不整形な円形のプランを呈す。石の集積状態はやや密である。100cm×90cm深さ30cmの土坑を伴う。

(S I -48) 分類〔A II b 3〕

集石の規模は約80cm×60cmを測り、やや不整形な円形のプランを呈す。石の集積状態は疎らである。83cm×80cm深さ15cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土で炭化物が見られた。

(S I -49) 分類〔C I a 2〕

集石の規模は約130cm×——cmを測り、楕円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。153cm×——cm深さ28cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土で炭化物が見られた。

(S I -50) 分類〔B III c〕

集石の規模は約120cm×90cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや粗で、土坑を伴わない。

(S I -51) 分類〔C I a 1〕遺物〔土器46・59・61〕

集石の規模は約250cm×210cmを測り、やや不整形な円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。176cm×164cm深さ40cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土で炭化物が見られた。

(S I -52) 分類〔C I a 1〕遺物〔磨石141〕

集石の規模は約230cm×200cmを測り、やや不整形な円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。190cm×180cm深さ45cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土で炭化物が見られた。

(S I -53) 分類〔C I a 2〕

集石の規模は約280cm×200cmを測り、不整形な楕円形のプランを呈す。石の集積状態はやや密である。178cm×160cm深さ30cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土で

炭化物が見られた。

(S I - 54) 分類〔C I a 2〕

集石の規模は約130cm×120cmを測り、やや不整形な円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。92cm×(90)cm深さ23cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土。

(S I - 55) 分類〔B I a 2〕

集石の規模は約110cm×80cmを測り、やや不整形な梢円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。115cm×95cm深さ30cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 56) 分類〔C I a 2〕遺物〔土器27〕

集石の規模は約220cm×175cmを測り、やや不整形な梢円形のプランを呈す。石の集積状態はやや密であるが、中央部から焼跡を搔き出した痕跡が見られた。17.5cm×170cm深さ35cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土。

(S I - 57) 分類〔C III c〕

集石の規模は約150cm×100cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや粗で、土坑を伴わない。

(S I - 58) 分類〔C I a 1〕遺物〔土器64〕

集石の規模は約170cm×150cmを測り、梢円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。155cm×155cm深さ28cmの土坑を伴う。

(S I - 59) 分類〔B II b 3〕

集石の規模は約90cm×70cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。ごく浅い土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 60) 分類〔A II b 3〕

集石の規模は約50cm×50cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。ごく浅い土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 61) 分類〔C I a 3〕

集石の規模は約197cm×175cmを測り、梢円形に近いプランを呈す。石の集積状態は密である。177cm×135cm深さ17cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 62) 分類〔C I a 2〕

集石の規模は約185cm×170cmを測り、梢円形に近いプランを呈す。石の集積状態はやや密である。166cm×150cm深さ20cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 63) 分類〔C II a 3〕

集石の規模は約200cm×180cmを測り、やや不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや密であるが、一部焼石を取り出した痕跡が見られた。ごく浅い土坑を伴い、埋土は暗褐色土。

(S I - 64) 分類〔B I a 2〕

集石の規模は約90cm×——cmを測る。石の集積状態はやや密である。90cm——cm深さ20cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 65) 分類〔A III c〕

集石の規模は約60cm×55cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らで、土坑を伴わない。

(S I - 66) 分類〔C I a 1〕遺物〔土器47〕

集石の規模は約280cm×——cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。214cm×——cm深さ30cmの土坑を伴うが、更に土坑内から90cm×77cm深さ50cmの掘り込みを確認した。埋土は黒褐色土。

(S I - 67) 分類〔A II b 3〕

集石の規模は約60cm×50cmを測り、石の集積状態はやや疎らである。ごく浅い土坑を伴い、埋土は暗褐色土。

(S I - 68) 分類〔B II a 3〕

集石の規模は約85cm×60cmを測り、石の集積状態はやや密である。ごく浅い土坑を伴い、埋土は暗褐色土。

(S I - 69) 分類〔A III c〕

集石の規模は約110cm×90cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らで、土坑を伴わない。

(S I - 70) 分類〔B III c〕

集石の規模は約70cm×60cmを測る。石の集積状態はやや疎らで、土坑を伴わない。

(S I - 71) 分類〔A II a 3〕

集石の規模は約80cm×90cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。43cm×40cm深さ15cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 72) 分類〔A III c〕

集石の規模は約60cm×40cmを測る。石の集積状態はやや疎らで、土坑を伴わない。

(S I - 73) 分類〔A III c〕

集石の規模は約50cm×50cmを測る。石の集積状態はやや疎らで、土坑を伴わない。

(S I - 74) 分類〔B I a 2〕

集石の規模は約110cm×90cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや密である。86cm×85cm深さ22cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 75) 分類〔B III c〕

集石の規模は約90cm×70cmを測る。石の集積状態は疎らで、土坑を伴わない。

(S I - 76) 分類〔A III c〕

集石の規模は約70cm×50cmを測る。石の集積状態は疎らで、土坑を伴わない。

(S I - 77) 分類〔A III c〕

集石の規模は約70cm×70cmを測る。石の集積状態は疎らで、土坑を伴わない。

(S I - 78) 分類〔B II b 3〕遺物〔土器74〕

集石の規模は約100cm×90cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。84cm×80cm深さ10cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 79) 分類〔C I a 2〕遺物〔土器51〕

集石の規模は約150cm×140cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや密である。105cm×97cm深さ23cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 80) 分類〔B III c〕

集石の規模は約120cm×——cmを測る。石の集積状態は疎らで、土坑を伴わない。

(S I - 81) 分類〔B I b 2〕

集石の規模は約90cm×——cmを測り、楕円形に近いプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。112cm×——cm深さ20cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 82) 分類〔A III a〕

集石の規模は約70cm×65cmを測り、不整形な円形に近いプランを呈す。石の集積状態は密で、土坑を伴わない。

(S I - 83) 分類〔A III a〕

集石の規模は約70cm×70cmを測り、不整形な円形に近いプランを呈す。石の集積状態は密で、土坑を伴わない。

(S I - 84) 分類〔C I b 2〕

集石の規模は約150cm×90cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。147cm×126cm深さ23cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 85) 分類〔B I b 2〕

集石の規模は約100cm×70cmを測り、楕円形に近いプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。117cm×114cm深さ23cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 86) 分類〔B II a 3〕

集石の規模は約120cm×90cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。90cm×88cm深さ8cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 87) 分類〔B III a〕

集石の規模は約90cm×70cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや密で、土坑を伴わない。

(S I - 88) 分類〔A III c〕

集石の規模は約60cm×60cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らで、土坑を伴わない。

(S I - 89) 分類〔A III c〕

集石の規模は約50cm×50cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らで、土坑を伴わない。

(S I - 90) 分類〔C I b 2〕

集石の規模は約130cm×100cmを測り、ほぼ円形に近いプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。150cm×138cm深さ38cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土。

(S I - 91) 分類〔C I b 2〕

集石の規模は約140cm×110cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。150cm×136cm深さ43cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土。

(S I - 92) 分類〔B II b 3〕

集石の規模は約100cm×90cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。100cm×100cm深さ10cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I - 93) 分類〔B III a〕

集石の規模は約85cm×80cmを測り、楕円形のプランを呈す。石の集積状態はやや密で、土坑を伴わない。

(S I - 94) 分類〔A III a〕

石の集積状態はやや密で、土坑を伴わない。

(S I - 95) 分類〔A III a〕

集石の規模は約70cm×——cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態はやや密で、土坑を伴わない。

(S I - 96) 分類〔B III c〕

集石の規模は約85cm×75cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態は疎らで土坑を伴わない。

(S I - 97) 分類〔C I a 2〕

集石の規模は約165cm×80cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや密である。164cm×127cm深さ25cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土で土坑内には配石を伴わない。

(S I - 98) 分類〔B II a 3〕

集石の規模は約120cm×110cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや密である。144cm×120cm深さ10cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土で土坑内に

は配石を伴わない。

(S I -99) 分類〔B I a 2〕

集石の規模は約120cm×110cmを測り、やや不整形な円形プランを呈す。石の集積状態は密である。140cm×97cm深さ16cmの土坑を伴う。

(S I -100) 分類〔C III a〕

集石の規模は約165cm×110cmを測り、梢円形のプランを呈す。石の集積状態は密で、土坑を伴わない。

(S I -101) 分類〔C I a 1〕

集石の規模は約220cm×200cmを測り、円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。220cm×200cm深さ40cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土で炭化物が見られたほか、軽石が出土した。

(S I -102) 分類〔B II a〕

集石の規模は約90cm×60cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。75cm×45cm深さ10cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土。

(S I -103) 分類〔C I a 1〕

集石の規模は約270cm×180cmを測り、やや不整形な円形プランを呈す。石の集積状態は密である。150cm×130cm深さ30cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土。

(S I -104) 分類〔C I a 1〕遺物〔チャートのチップ〕

集石の規模は約150cm×100cmを測り、円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。165cm×135cm深さ40cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。S I -105廃棄後に當まれたものと見られる。

(S I -105) 分類〔C I a 2〕

集石の規模は約140cm×90cmを測り、正確なプランは不明である。石の集積状態は密である。90cm×86cm深さ20cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土。

(S I -106) 分類〔C II a 3〕遺物〔土器36〕

集石の規模は約120cm×90cmを測り、正確なプランは不明である。石の集積状態は密である。190cm×160cm深さ34cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土下に暗褐色土。

(S I -107) 分類〔B II a 2〕

集石の規模は約170cm×115cmを測り、正確なプランは不明である。石の集積状態はやや密である。105cm×103cm深さ15cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土。

(S I -108) 分類〔C II a 2〕

集石の規模は約150cm×110cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。106cm×98cm深さ15cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I -109) 分類〔B II b 3〕

集石の規模は約105cm×90cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態は疎らである。116cm×102cm深さ10cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I -110) 分類〔A I b 2〕

集石の規模は約80cm×80cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態はやや疎らである。120cm×80cm深さ27cmの土坑を伴う。埋土は暗褐色土。

(S I -111) 分類〔C I b 2〕

集石の規模は約180cm×130cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態は疎らである。157cm×144cm深さ35cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土。

(S I -112) 分類〔C I b 2〕遺物〔黒曜石チップ〕

集石の規模は約130cm×120cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態は疎らである。120cm×110cm深さ22cmの土坑を伴う。埋土は黒褐色土。

- B 区 -

(S I -113) 分類〔C III c〕

集石の規模は約300cm×——cmを測り、ほぼ円形のプランが想定される。石の集積状態は疎らで土坑を伴わない。

(S I -114) 分類〔A II a 3〕

集石の規模は約80cm×70cmを測り、ほぼ円形のプランを呈す。石の集積状態は密である。48cm×48cm深さ15cmの土坑を伴う。埋土は黒色土。

- C 区 -

(S I -115) 分類〔C III a〕

集石の規模は約125cm×——cmを測り、正確なプランは不明である。石の集積状態はやや密で土坑を伴わない。

(S I -116) 分類〔C III c〕

集石の規模は約125cm×85cmを測り、不整形なプランを呈す。石の集積状態は疎らで土坑を伴わない。

第4節 出土遺物〔土器〕

遺構に伴うものも少量あるが、大半は包含層・表土等からの出土である。これらの土器や石器は、いずれも縄文時代早期のものである。

土器は押型文、繩文、条痕文、無文をはじめ吉田式系、下剥峰式、桑ノ丸式、手向山式、塞ノ神式などが出土した。

- 吉田式系土器 - (1~21・69)

(11~17) は斜方向の丁寧な条痕を地文とし、縦位の貝殻刺突線文をめぐらすものの胸部。

(1・2) は口唇部平坦面に丁寧な刻目を、その直下に貝殻刺突線文を施し、更に楔形凸帯文を貼付する典型的な知覧式土器で、(3~7・9・10) はその胸部、(18~20) は縦位の刻線をめぐらす底部である。

(8・21) は貝殻押引文を施す吉田式土器とその底部とみられる。

-繩文土器 - (59~62・77~79)

(59~62) はあらい繩文を縱もしくは斜方向に施すもので、いずれも厚手である。(77~79) は細い繩文を斜方向に施すものであるが、(79) は他よりもきわめて薄手である。

-下剥峰式土器 - (22~32)

口縁部は面をとるものとやや丸みをもつものがあるが、いずれもやや内傾した形状を呈しており、桑ノ丸式土器への流れが見受けられる。

(24・29~32) は横位のやや粗雑な貝殻刺突線文と縦位の幅の狭い貝殻刺突線文を組み合わせるもので、(26・27) はその口縁部とみられる。

(23・25・28) は貝殻刺突文を綾状に施すこの型式の典型で、(23) は口縁部下に瘤状の突帶をめぐらす。

-桑ノ丸式土器 - (33~56・74)

文様は基本的に櫛歯状の施文具により羽伏文を施すものであるが、器形等も含めて若干のバリエーションがみられる。

(33) は2条の原体による簡素な文様を不定方向に施し、内傾した口縁部に口唇部は面をもち、その内端はシャープにおさめる。補修孔がみられる。

(35~40・43・44・47・49・52~56) は櫛歯状の施文具による文様を施す。

(37・39・40) は口縁部で(37) を除いていずれも内湾したプロボーションを呈す。

(52・53・55・56) の施文は他よりも細い原体で密に施す。(42・46・51) は縦方向に、(34・45・48) は斜方向に施文される。

(41) は流水状の施文がみられ口縁部は直線的につくるが、ここでは桑ノ丸タイプのものとしてとりあげておいた。

-手向山式土器 - (58・97)

(97) は内外面に山形押型文が施され、口縁部付近にあたるものとみられる。

(58) は頸から口縁部にかけて外傾し、口唇部は面をもつ。外面はやや粗雑な貼付突帶を何條もめぐらし、内面は口縁部直下にあらい条痕を施す。器形から想定して「壺」に分類せざるをえない。

-壺ノ神式土器 - (57)

縦位の撚糸文による文様帶を地文とし、棒状の施文具による横位の沈線を平行にめぐらすことにより連続する斜方向の沈線文を区画してさらに文様帯をつくる。-条痕土器 - (63~68)

(65・66) は斜位 (68) は横位 (63・64・67) は横位のち斜位の条痕を施す。

(66) は口縁部直下に棒状施文具による刺突文をめぐらす。

-無文土器 - (70~73)

(70・71) は比較的薄手の口縁部で口唇部に面をもつもの (70) とシャープにおさめるもの (71) がある。

-押型文土器 - (80~97)

楕円押型文 (80~89) と山形押型文 (90~97) がある。

(80・81) は口縁部で、いずれも端部は丸みをもっておさめる。(89) は尖底土器で比較的小ぶりのものと想定される。山形押型文は原体の幅が狭いものと、広くまのびするもの (96) がある。これらは器形・法量・施文などから、一時期に納まるものではないとられるが、現段階では細分を避けた。

第5節 出土遺物〔石器〕

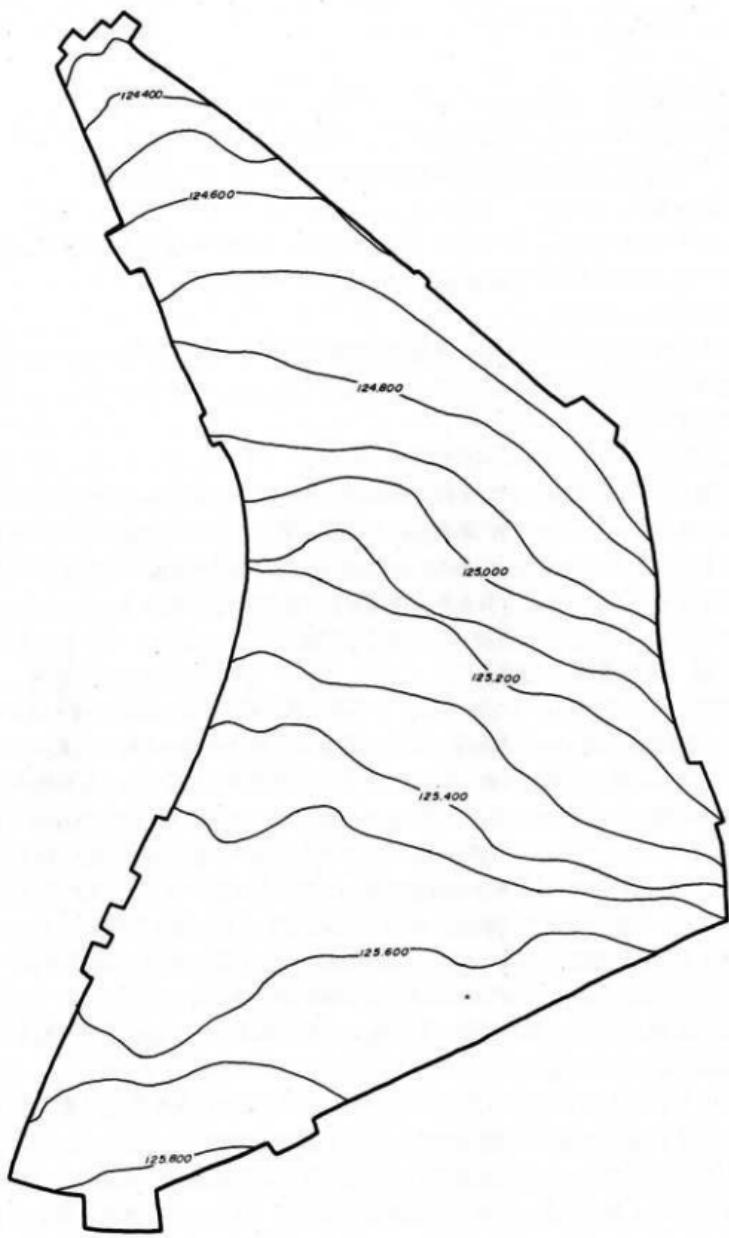
石鎌 (98~127・146)・石斧 (133)・石皿・磨り石 (135~140・142・143~145)・叩き石 (141)・有溝砥石 (134)・剝片等 (128~132) が出土した。

石鎌は無茎鎌の凹基無茎鎌 (98~127) と平基無茎鎌 (146) で、凹基無茎鎌には抉りの浅いもの (98~105) と深いもの (112~123) 剥片鎌 (106~110)・鍔形鎌 (124~127) がある。石材はチャート (99・102~105・107・109・110・114・117・118・121・124・127)・黒曜石 (98・100・101・106・108・111~113・116・119・125) その他安山岩・頁岩等 (115・120・126・146) などである。

磨り石は焼石に転用されたもの (135・136・138・139・144) が比較的多く見られた。(142~144) は尾鈴山麓産の火山性酸性岩である。

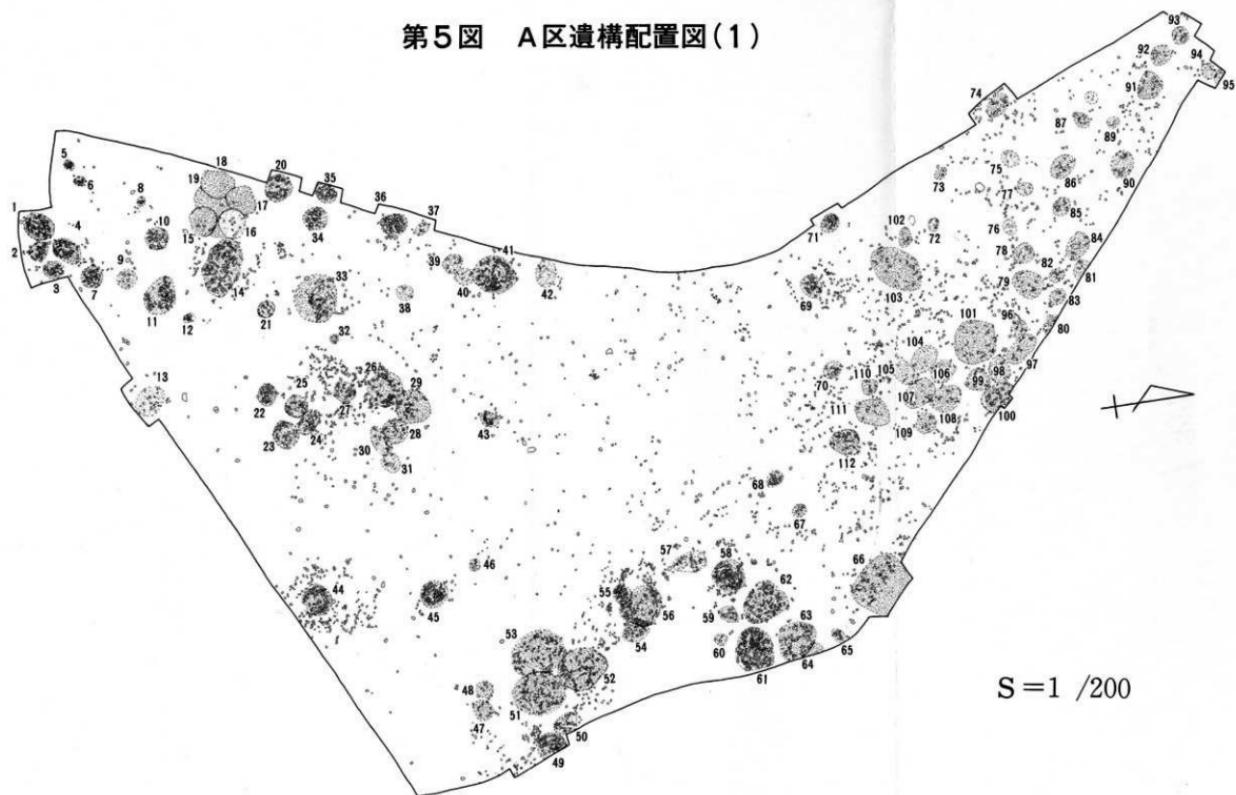
有溝砥石は現存する部分で縦に7本横に1本の使用痕がある。全面に熱を受けた痕跡があり、欠損後に焼石に転用されたものとみられる。

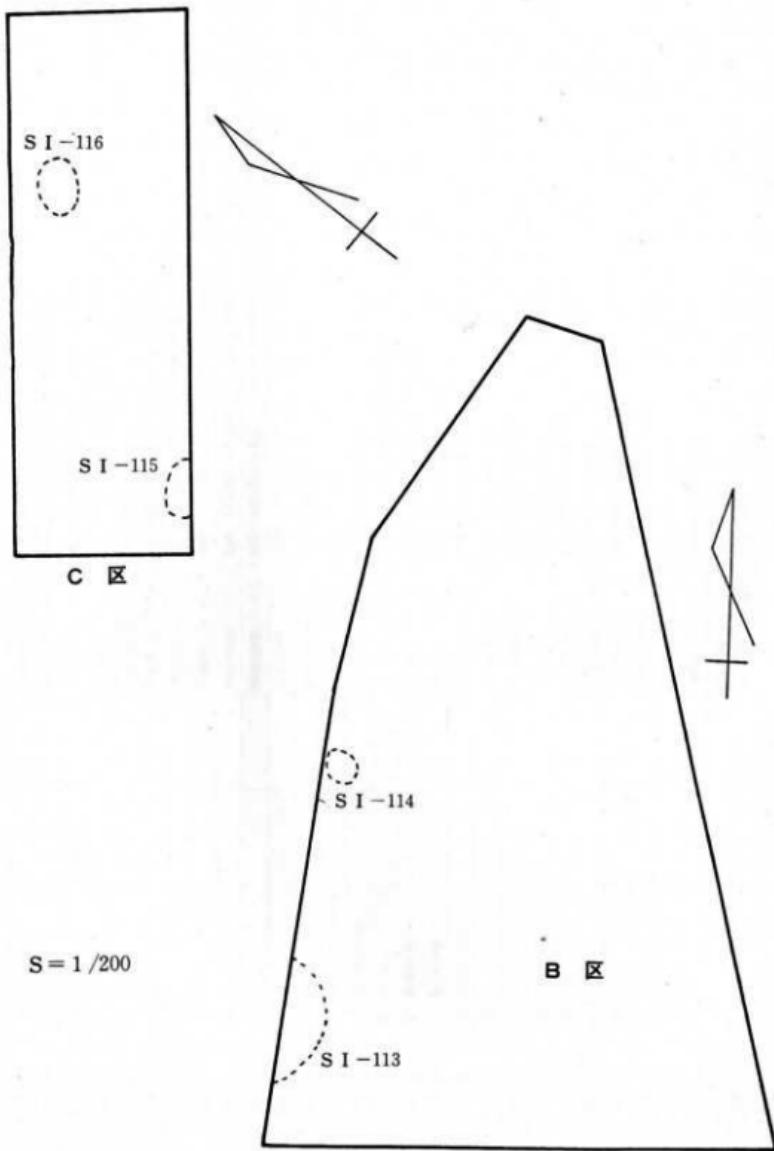
剝片・チップの石材は安山岩系のものから頁岩・チャート・黒曜石まで多種みられるが主観的な判断を避けるため、ここでは細分しない。



第4図 A区地形測量図

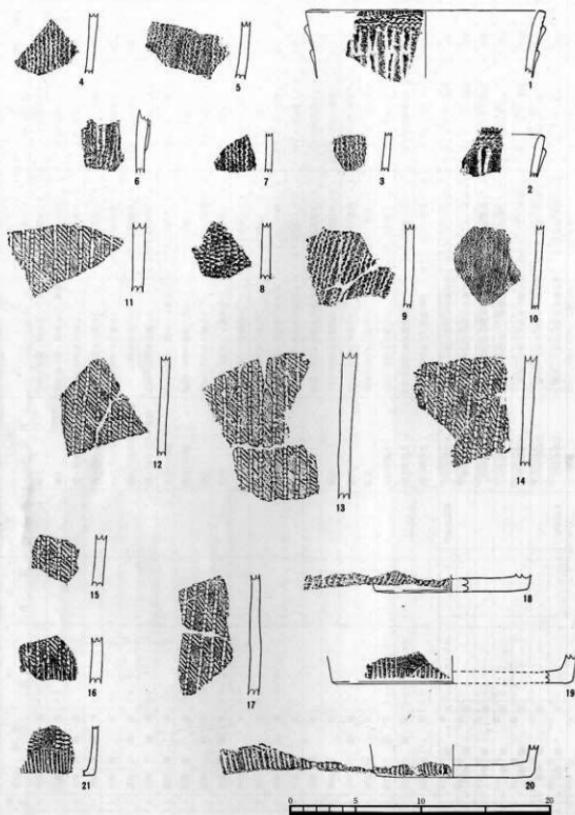
第5図 A区遺構配置図(1)





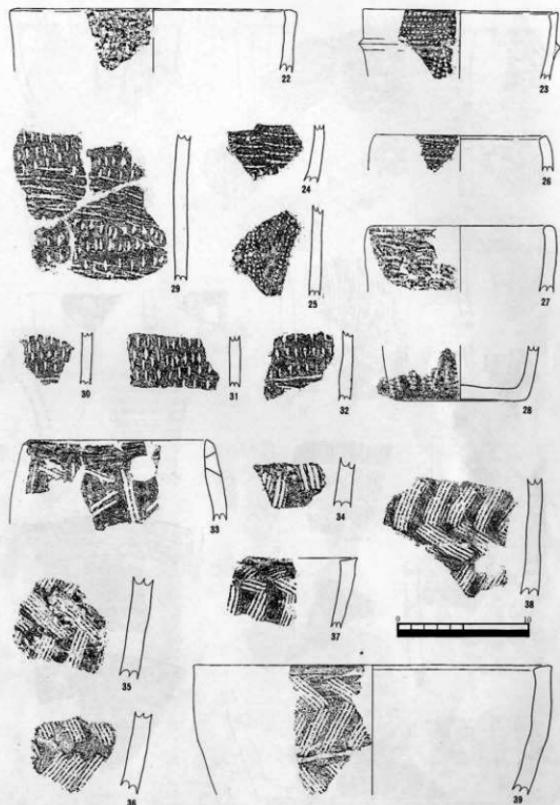
第6図 B・C区遺構配置図

表 察 銳 物 遣 土 出



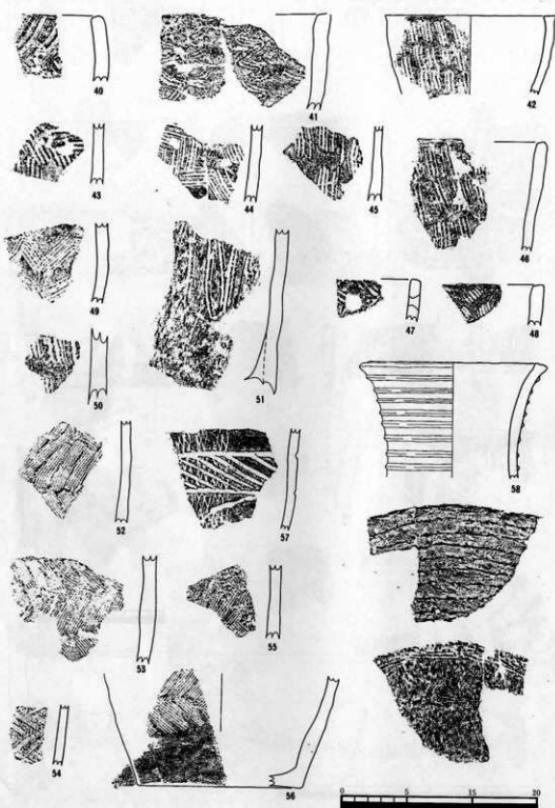
第7図 遺物実測図（土器）

- 28 -



第8図 遺物実測図（土器）

- 29 -



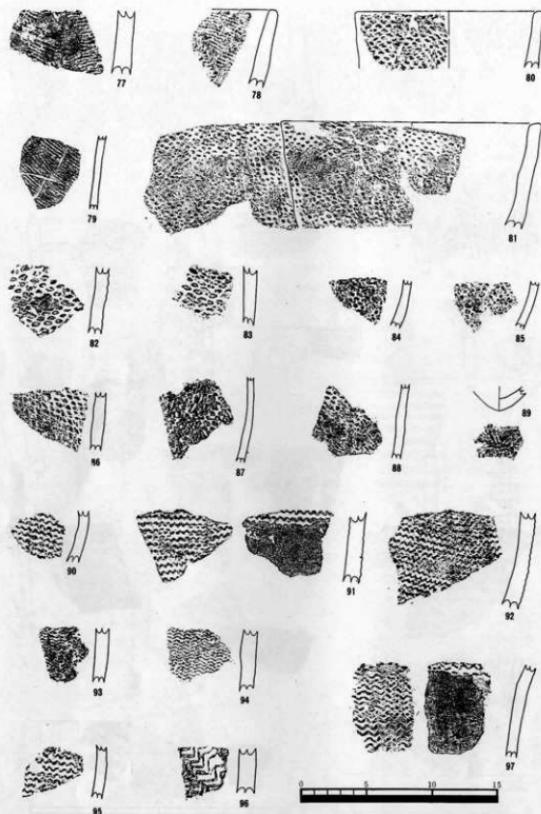
第9図 遺物実測図（土器）

- 30 -



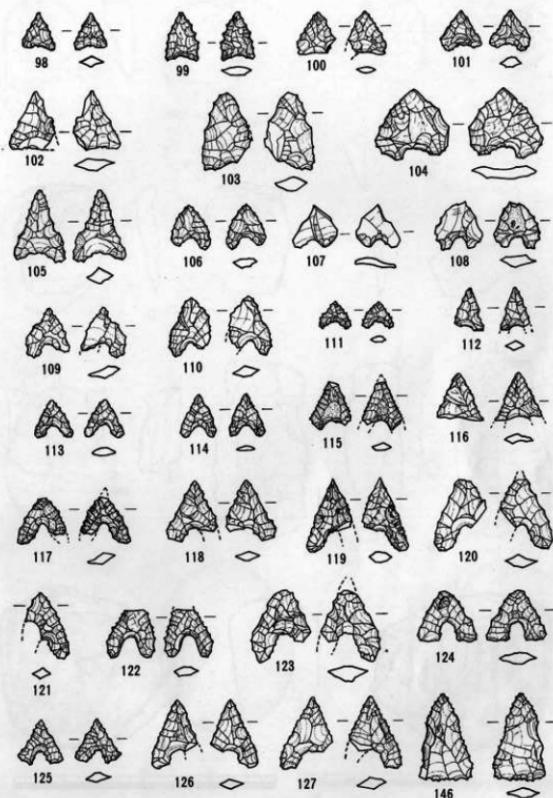
第10図 遺物実測図（土器）

- 31 -



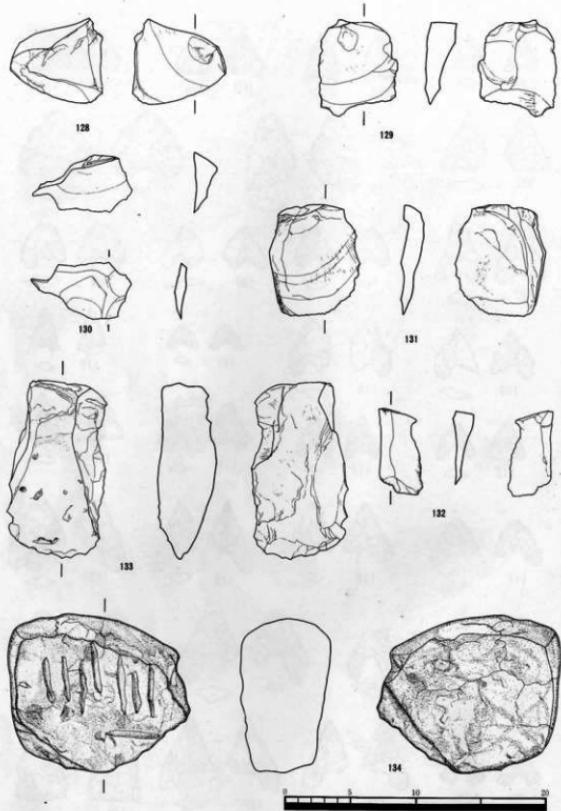
第11図 遺物実測図（土器）

-32-



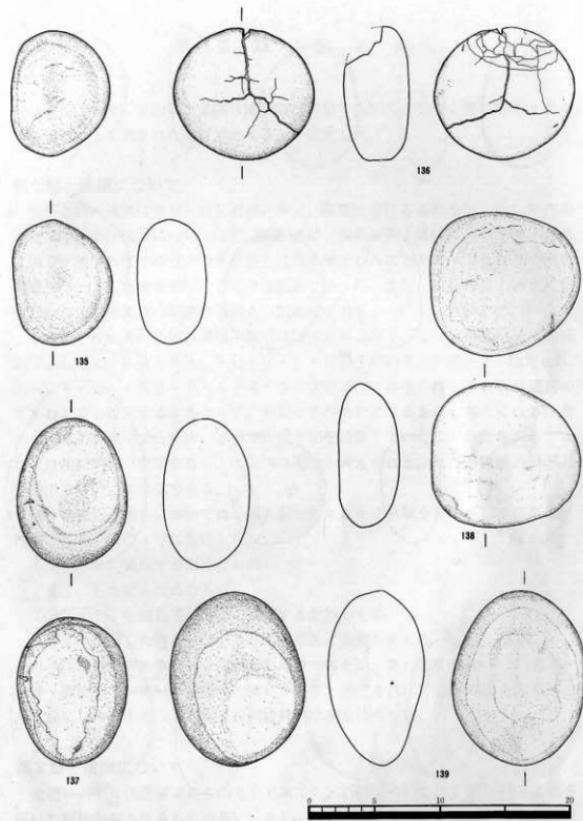
第12図 石器実測図 S=2/3

-33-



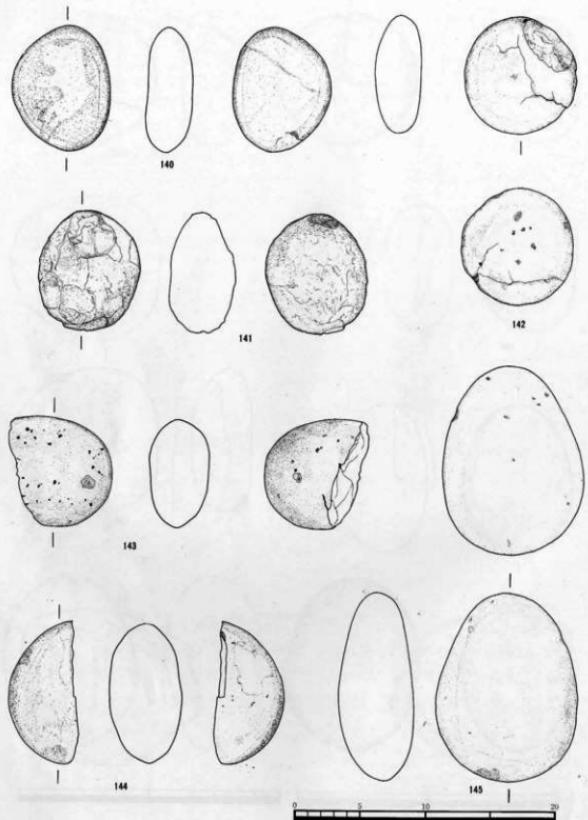
第13図 遺物実測図（石器）

- 34 -



第14図 遺物実測図（石器）

- 35 -



第15図 遺物実測図（石器）

- 36 -

第 III 章 まとめ

今回の調査で二ツ山第1遺跡は縄文時代早期の吉田式土器から塞ノ神式土器の時期にわたって営まれた遺跡であることを確認した。

第1節 遺構について

検出された遺構は集石・散石遺構のみで、住居址等はみられなかった。町内の調査で早期の住居址については前平地区遺跡、櫛現谷第1遺跡において検出されているが稀少な例であり、大半が集石遺構の検出のみにとどまっており、今回の調査も含めて集落論を展開することは困難であった。また、集石遺構の時期設定を含めた出土遺物との関連性等多くの問題点がある。

本遺跡で検出された集石遺構・散石は粗密がある中で、その分布状況から第16図で示したようにA・B・C・D・E・F・Gの7群のグルーピングが想定され、さらにa・b・c・d・e・f・g・hの空白エリアがみられる。これは遺跡の営まれた姿を復元するにあたって、重要な手がかりになるものと考えられる。おそらく集石を使用する際に、必要な作業空間を確保していたことが推される。またhは比較的広い空間を有し、広場等の用途が考えられる。ただ各遺構の時期設定ができないのが残念である。

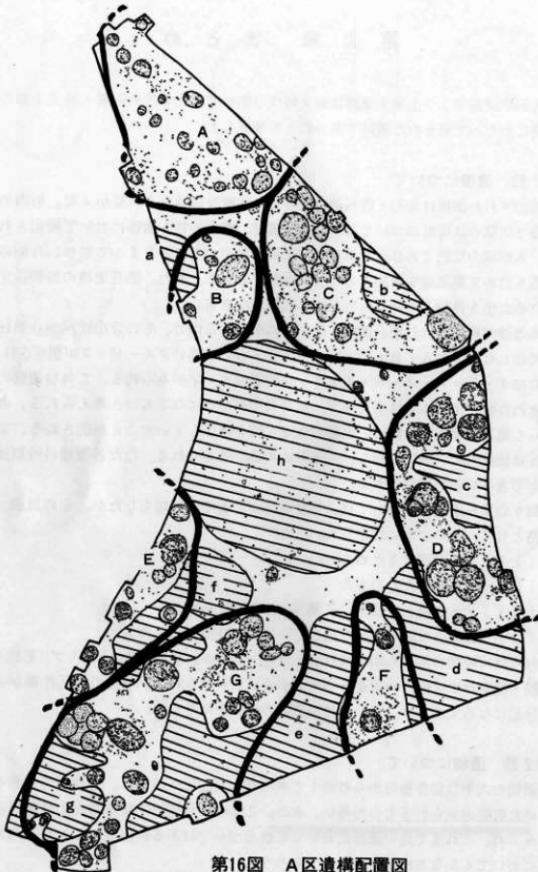
個々の集石遺構のについては、第II章でおおよその分類をしたが、その用途・性格として、次のように想定した。

- [1] 主に調理するためのもの
- [2] 石を焼くためのもの
- [3] [2] の焼石を使用して調理するためのもの
- [4] 使用した焼石を取り出して一箇所に廃棄したもの

これらは可能性のあるものを羅列しただけであるが、集石遺構の各タイプ（形態・規模・廃棄パターン等）の用途を明確にすれば、遺跡の復元作業がより容易になるであろう。当面は類例資料の増加を待ちたい。

第2節 遺物について

遺物の大半は包含層等からの出土であった。石器については、磨り石等に熱を受けた痕跡が見られるものが多い。また、この中には尾鈴山麓産の火山性酸性岩がみられ、これまで他の遺跡においても数点づつではあるが出土しており、当地域においてもかなり流通したものであろう。



第16図 A区遺構配置図

- 38 -

土器の出土量（いずれも破片点数）は吉田式系が28点・総重量約820g、縄文11点・1060g、下剥峰式24点・740g、桑ノ丸式68点・1960g、手向山式2点・140g、塞ノ神式4点・100g、条痕文10点・320g、無文16点・280g、押型文31点・1280gであった。のことから桑ノ丸式の時期を中心とする遺跡であることが推されるが、個々の分布が明確に区分されない限り遺構の時期をこれにあてることは不可能である。集石遺構が主体となる遺跡においては、特に複数の型式の遺物が出土する場合、従来の調査方法ではこれら遺物を生かして遺跡を解釈することは極めて困難である。

第3節 おわりに

最後に周知のことではあるが、今後の集石遺構調査において必要な事項について記しておく。

〔1〕科学的応用

- ・熱ルミネッセンス及びC¹⁴による年代測定

各集石遺構について焼縁をサンプリングして分析にかける。（出土遺物とあわせて遺構の時期決定の目安とする。）

- ・脂肪酸分析による食文化の復元
- ・土壤分析等による古環境の復元

〔2〕その他

- ・集石遺構に使用された石の点数・総重量の計量及び材質の分析
- ・焼石に転用された石器の分析

『参考文献』

田野町文化財調査報告書第1集～12集 田野町教育委員会

天神河内第1遺跡 1991 宮崎県教育委員会

天道ヶ尾遺跡II 熊本県文化財調査報告111集・1990 熊本県教育委員会

新東晃一「早期九州貝殻文系土器様式」縄文土器大観1. 小学館1989

新東晃一「火山灰からみた南九州縄文早前期の諸様相」

『鏡山猛先生古稀記念・古文化論叢』1980

塞ノ神式土器 縄文集成シリーズ2 1985 縄文研究会

*磨石の石材については宍戸 章氏に鑑定をいただいた。

写 真 図 版

(二ッ山第1遺跡)

PL-1



ニッ山第1遺跡全景（調査終了前）

PL-2



二ツ山第1造跡全量（調査開始前）

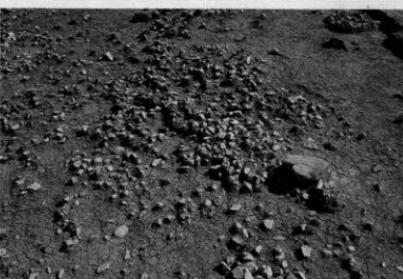
PL-3



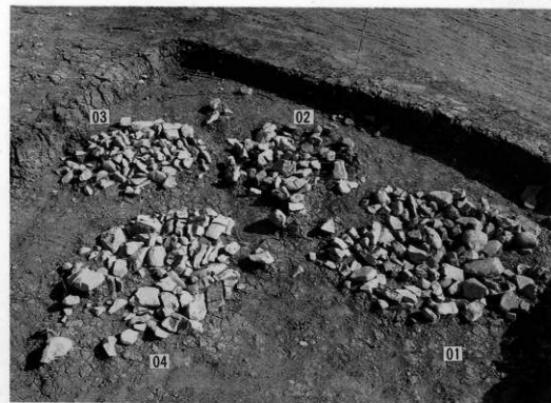
PL-4



集石造構検出状況



PL-5



01 土坑



02 土坑



03 土坑



04 土坑

PL-6



05



05 土坑



06



06 土坑



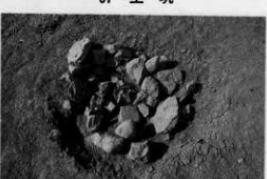
07



07 土坑



08



09

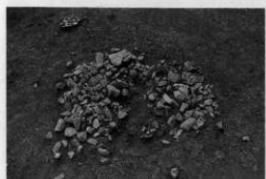
PL-7



10



10 土坑



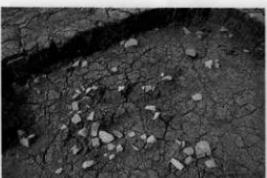
11



11 土坑



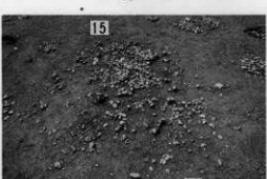
12



13



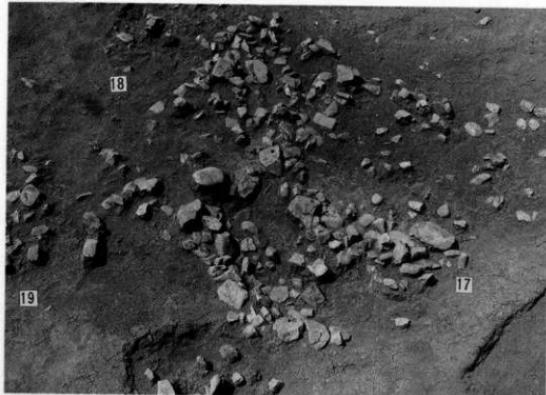
14



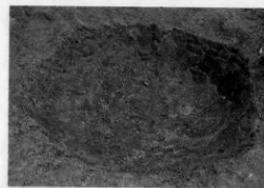
15

16

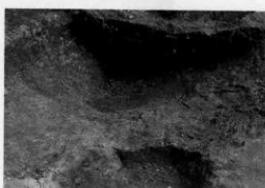
PL-8



17 · 18 · 19



19 土坑



17 土坑



18



18 土坑

PL-9



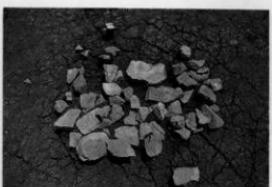
20



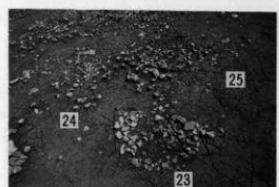
20



21



22

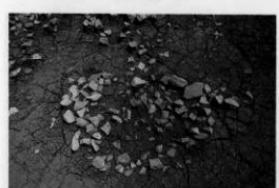


24

25



22 土坑

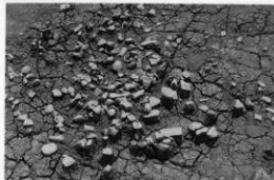


23

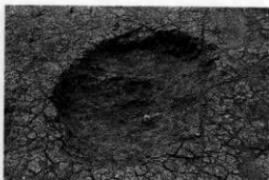


23 土坑

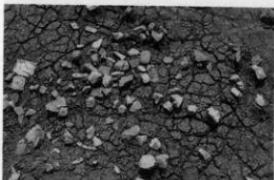
PL-10



24



24 土坑



25



26



26



26 土坑



27

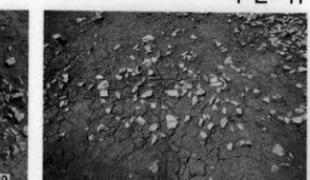


27 土坑

PL-11



28

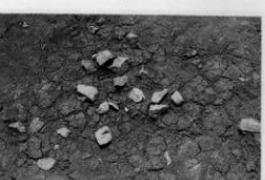


29

30



31



32



33



33 土坑



34



34 土坑

PL-12



35



36



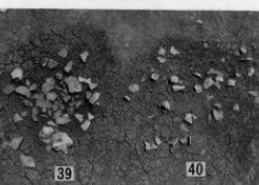
37



36 土坑



38



39 · 40



39 土坑

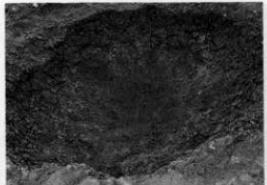


40 土坑

PL-13



41



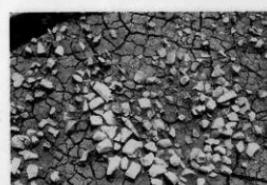
41 土坑



42



43



44



44 土坑



45



45 土坑

PL-14



46



47



48



47 土坑



48 土坑



49



50



49 土坑

PL-15



51 • 52 • 53



53 • 51



51



51 土坑

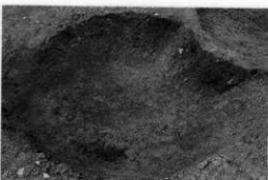


52 • 53

PL-16



53 土坑



52 土坑



54 · 55 · 56



54



55



56 土坑

PL-17



57



58



59



58 土坑



59



59 土坑



60



60 土坑

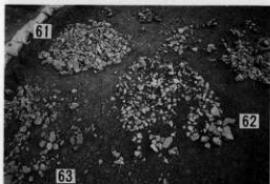
PL-18



61



61 土坑

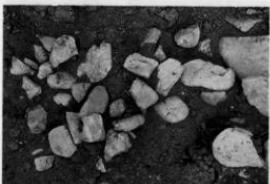


63

62



63



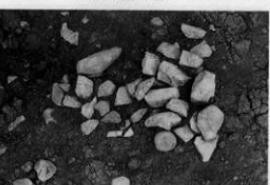
64



63 土坑

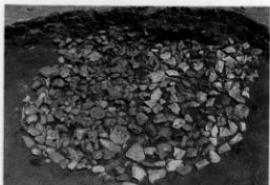


64 土坑



65

PL-19



66



66 土坑



67



67 土坑



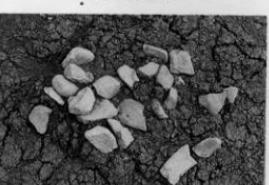
68



68 土坑



69



70

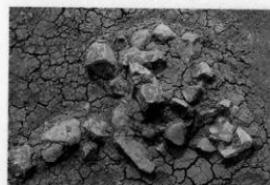
PL-20



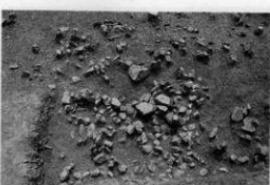
71



72



73



74



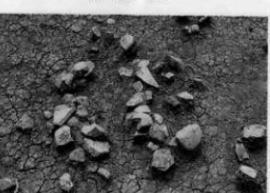
75



74 土坑



76

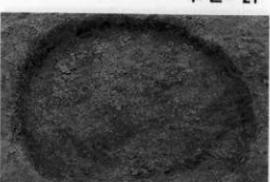


77

PL-21



78



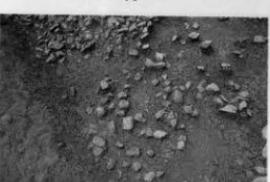
78 土坑



79



80



81



81 土坑



82



83

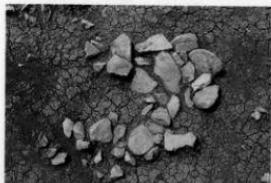
PL-22



84



84 土坑



85



85 土坑



86



86 土坑



87



88

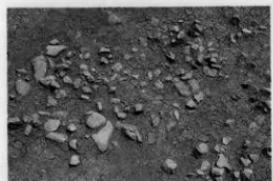
PL-23



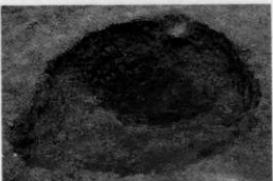
89



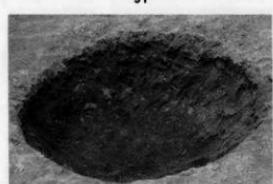
90



91



90 土坑



91 土坑



92



93

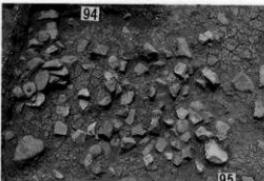


92 土坑

PL-24



94 · 95



94

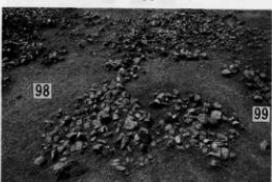
95



96



97



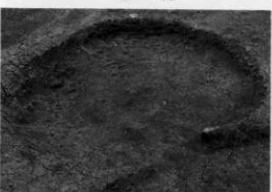
98

99

98 · 99



97 土坑



98 土坑

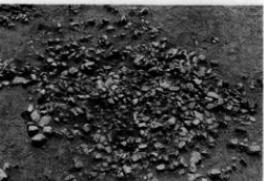


99 土坑

PL-25



100



101



102



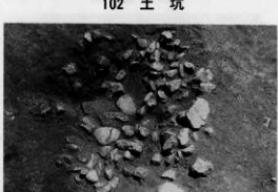
101 土坑



102 土坑

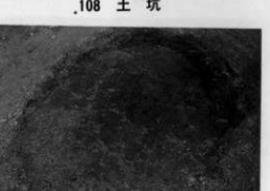
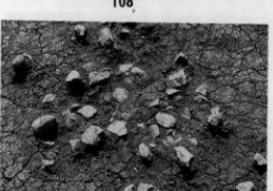
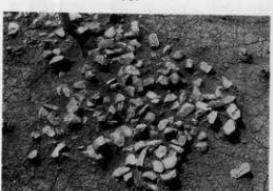
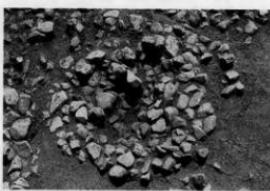
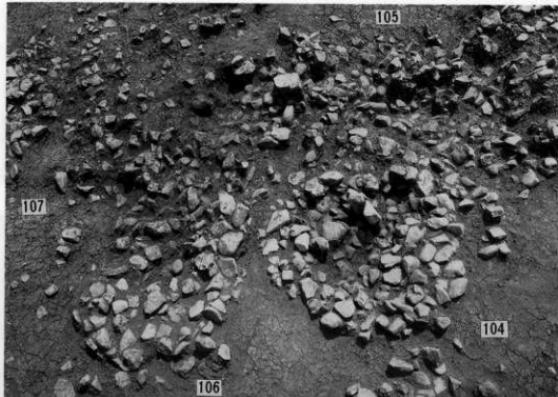


103

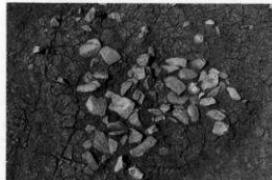


103

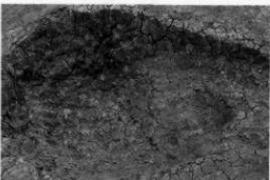
103 土坑



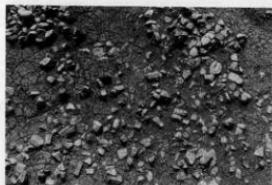
PL-28



110



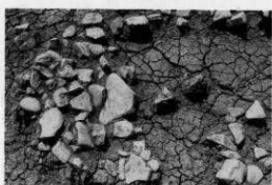
110 土坑



111



111 土坑



112



112 土坑



焼石検出状況



A区作業風景

PL-29



B区全景



113



114

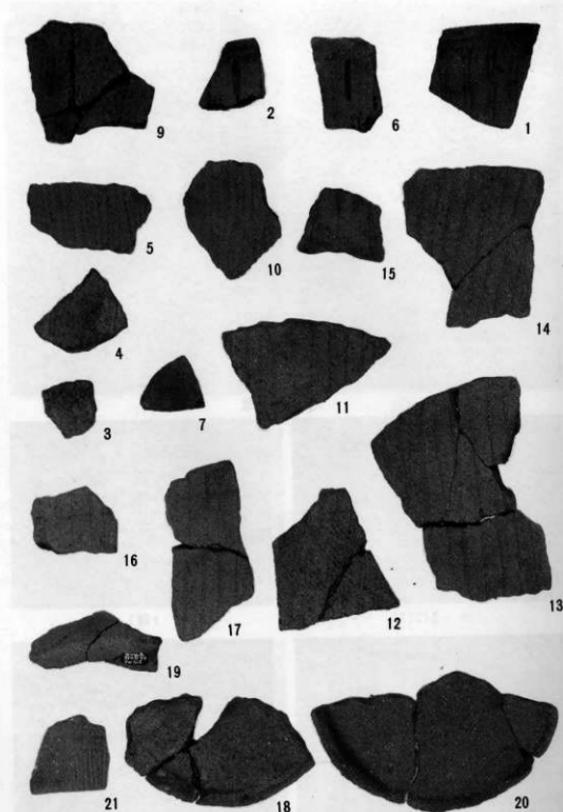


C区検出状況

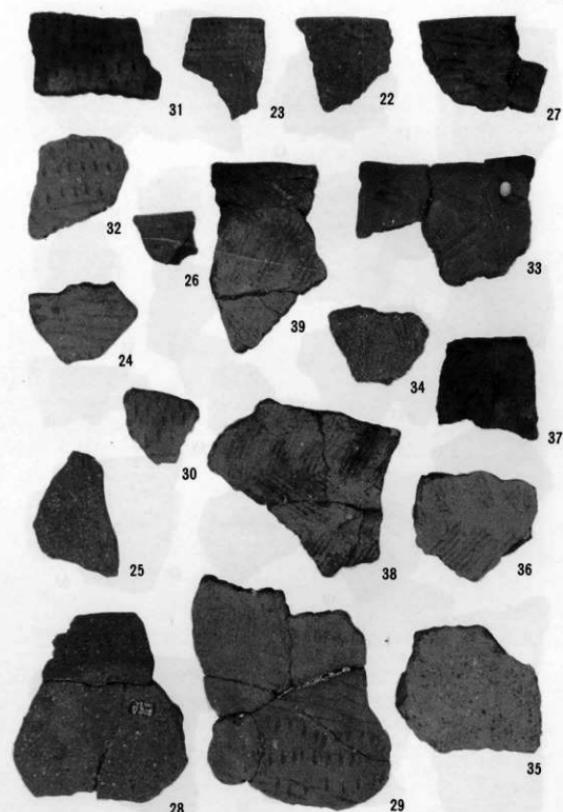


115

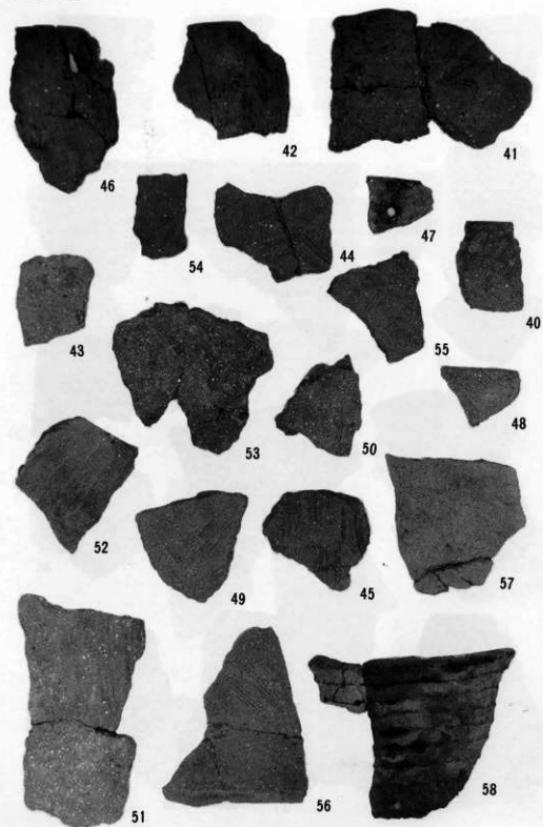
PL - 30



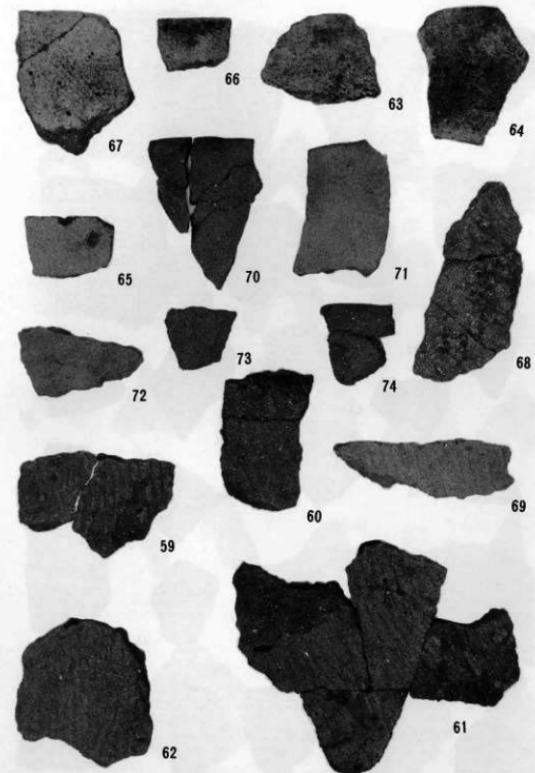
PL - 31



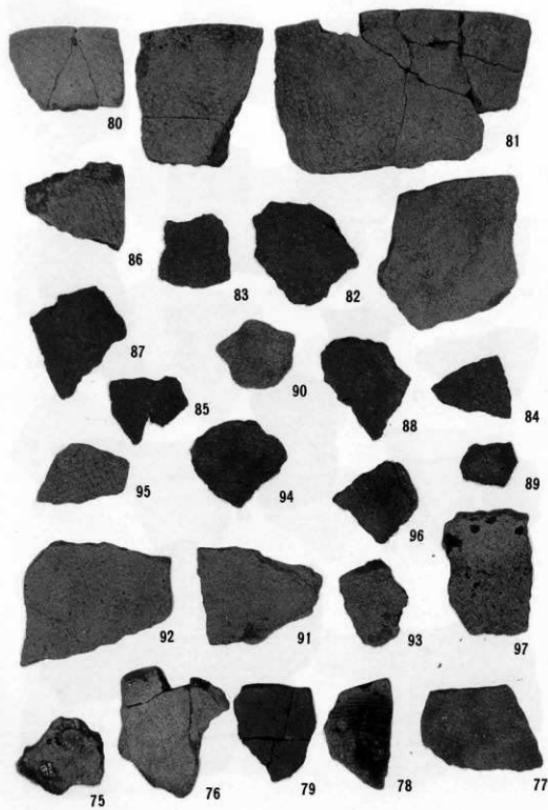
PL -32



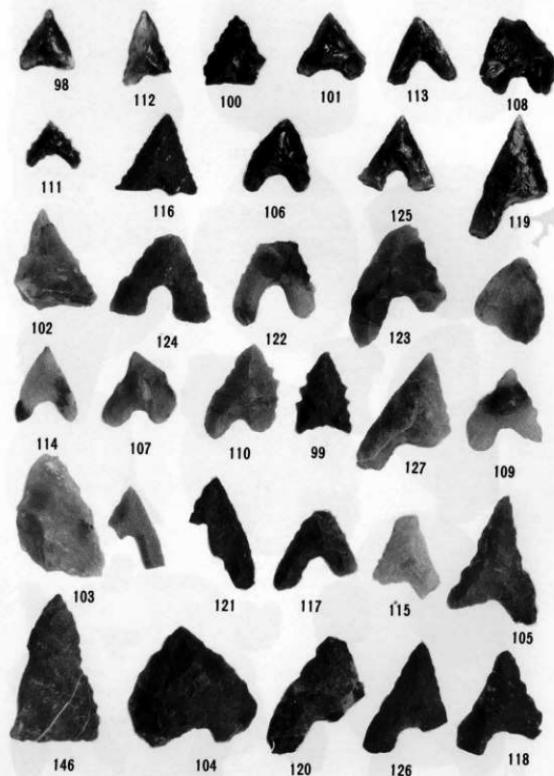
PL -33



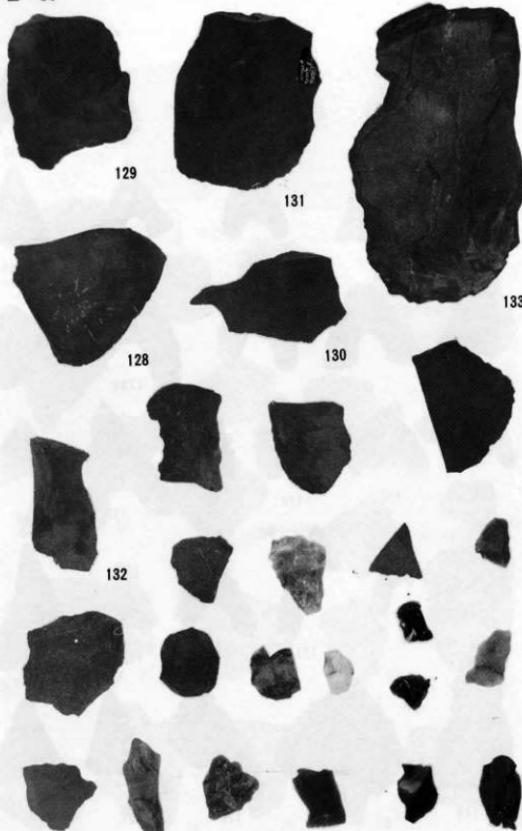
PL -34



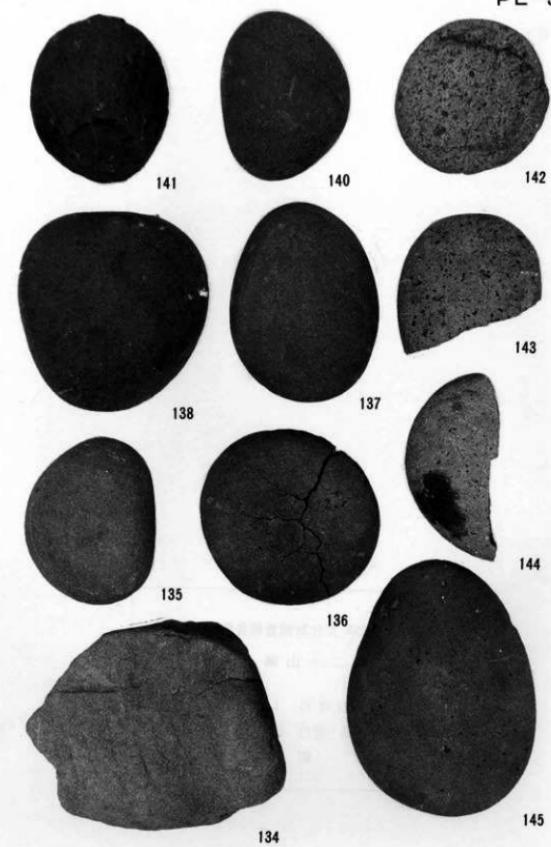
PL -35



PL-36



PL-37



田野町文化財調査報告書 第13集
二ッ山第1遺跡

発行年月 1992年3月
編集・発行 田野町教育委員会
印刷 刷(有)昭和印刷

